

講義名称	卒業研究Ⅱ	担当教員名	高山 有紀
科目群	必修 (REQ)		
科目区分等	卒業研究	単 位	2
対象学年次	2年・秋学期	ナンバリング	REQ212

授業のキーワード	日本文化史、子どもと社会、学校教育史
授業の概要	日本文化、学校教育あるいは子どもに関わるテーマをひとつ選び、社会との関係を含め歴史的に概観します。さらに今後どうなっていくのか、についても考察します。
期待される学習成果 (目標)	1、日本文化史、学校教育史を通じて、日本の社会の成り立ちについて理解を深めることができます。 2、身近な日本文化に関心を持ち、視野を広げることができます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明します。
2	報告	夏休み中の作業をふまえ、ゼミ論文の進捗状況を報告します。
3	報告	夏休み中の作業をふまえ、ゼミ論文の進捗状況を報告します。
4	報告	夏休み中の作業をふまえ、ゼミ論文の進捗状況を報告します。
5	ゼミ論文の書き方について	ゼミ論文の執筆にむけて、担当者が模擬報告を行います。
6	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
7	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
8	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
9	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
10	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
11	報告	ゼミ論文に関する報告を行います。質疑応答。
12	個別指導	ゼミ論文の完成に向けて個別指導を行います。
13	個別指導	ゼミ論文の完成に向けて個別指導を行います。
14	個別指導	ゼミ論文の完成に向けて個別指導を行います。
15	まとめ	ゼミ論文を仕上げ、報告をします。

定期試験	ゼミ論文の提出をもって試験とします。
授業時間外学習	第1～5講は、ゼミ報告の準備を行います。第6～10講では、ゼミ論を執筆します。第11～15講では、ゼミ論を仕上げます。
評価方法	授業への取り組み（30パーセント）、課題に対する評価（70パーセント）により総合的に評価します。
使用する教科書（必ず購入してください）	
参考文献	小山静子『子どもたちの近代—学校教育と家庭教育—』吉川弘文館 佐藤秀夫『教育の文化史2 学校の文化』阿吽社 永井聖二ほか編『消費社会と子どもの文化』（子ども社会シリーズ6）学文社